

☆復活の主日(4月9日)の聖書朗読☆ ※主任司祭からの解説があります。

**第一朗読 (使徒たちの宣教 10章34a、37～43節)**

その日、ペトロは口を開きこう言った。「神は人を分け隔てなさないことが、よく分かりました。あなたがたはご存じでしょう。ヨハネが洗礼を宣べ伝えた後に、ガリラヤから始まってユダヤ全土に起きた出来事です。

つまり、ナザレのイエスのことです。神は、聖霊と力によってこの方を油注がれた者となさいました。イエスは、方々を巡り歩いて人々を助け、悪魔に苦しめられている人たちをすべていやされたのですが、それは、神が御一緒だったからです。わたしたちは、イエスがユダヤ人の住む地方、特にエルサレムでなされたことすべての証人です。人々はイエスを木にかけて殺してしまいましたが、神はこのイエスを三日目に復活させ、人々の前に現してくださいました。

しかし、それは民全体に対してではなく、前もって神に選ばれた証人、つまり、イエスが死者の中から復活した後、御一緒に食事をしたわたしたちに対してです。そしてイエスは、御自分が生きている者と死んだ者との審判者として神から定められた者であることを、民に宣べ伝え、力強く証しするようと、わたしたちにお命じになりました。また預言者も皆、イエスについて、この方を信じる者はだれでもその名によって罪の赦しが受けられる、と証ししています。」

**第二朗読 (コロサイの信徒への手紙 3章1～4節)**

さて、あなたがたは、キリストと共に復活させられたのですから、上にあるものを求めなさい。そこでは、キリストが神の右の座に着いておられます。上にあるものに心を留め、地上のものに心を引かれないようにしなさい。あなたがたは死んだのであって、あなたがたの命は、キリストと共に神の内に隠されているのです。あなたがたの命であるキリストが現れるとき、あなたがたも、キリストと共に栄光に包まれて現れるでしょう。

**福音朗読 (ヨハネによる福音書 20章1～9節)**

週の初めの日、朝早く、まだ暗いうちに、マグダラのマリアは墓に行った。そして、墓から石が取りのけてあるのを見た。そこで、シモン・ペトロのところ

へ、また、イエスが愛しておられたもう一人の弟子のところへ走って行って彼らに告げた。「主が墓から取り去られました。どこに置かれているのか、わたしたちには分かりません。」そこで、ペトロとそのもう一人の弟子は、外に出て墓へ行った。二人は一緒に走ったが、もう一人の弟子の方が、ペトロより速く走って、先に墓に着いた。

身をかがめて中をのぞくと、亜麻布が置いてあった。しかし、彼は中には入らなかった。続いて、シモン・ペトロも着いた。彼は墓に入り、亜麻布が置いてあるのを見た。イエスの頭を包んでいた覆いは、亜麻布と同じ所には置いてなく、離れた所に丸めてあった。それから、先に墓に着いたもう一人の弟子も入って来て、見て、信じた。イエスは必ず死者の中から復活されることになっているという聖書の言葉を、二人はまだ理解していなかったのである。

#### 朗読解説 一主任司祭より皆様へ一

主の復活、おめでとうございます。アレルヤ！！ ここ何日か春の嵐が吹き荒れて、まさに主イエスが受難に遭われ、地震が起こり、神殿の天幕が真っ二つに引き裂かれ、天地の創造主である神が人類の救いのために苦しめられたことを再現するような日々でしたね。今はその痕跡もなくすっきりと晴れ渡っています。まさに主の復活を自然も宇宙も喜び輝いているかのようです。そうです、人間の救いの希望が果たされたのですから全宇宙が喜んでいるのです。私たちも喜び歌いましょう。アレルヤ！アレルヤ！私たちの日常と神さまの救いの業は決して別世界ではありません。私たちは今喜び溢れていなければなりません。近所の人々に「なぜあなたたちはいつも喜んでいるのですか？」という問いに答えなければなりません。イエスの弟子たちはその喜びに居ても立ってもいられず、全世界に飛び出して行ったのです。さあ飛び出して、主イエスの復活を告げ知らせましょう！

#### 第一朗読（使徒たちの宣教 10章34a、37～43節）

イエスの受難の時にイエスを「知らない」と否定したペトロ。彼は今見違

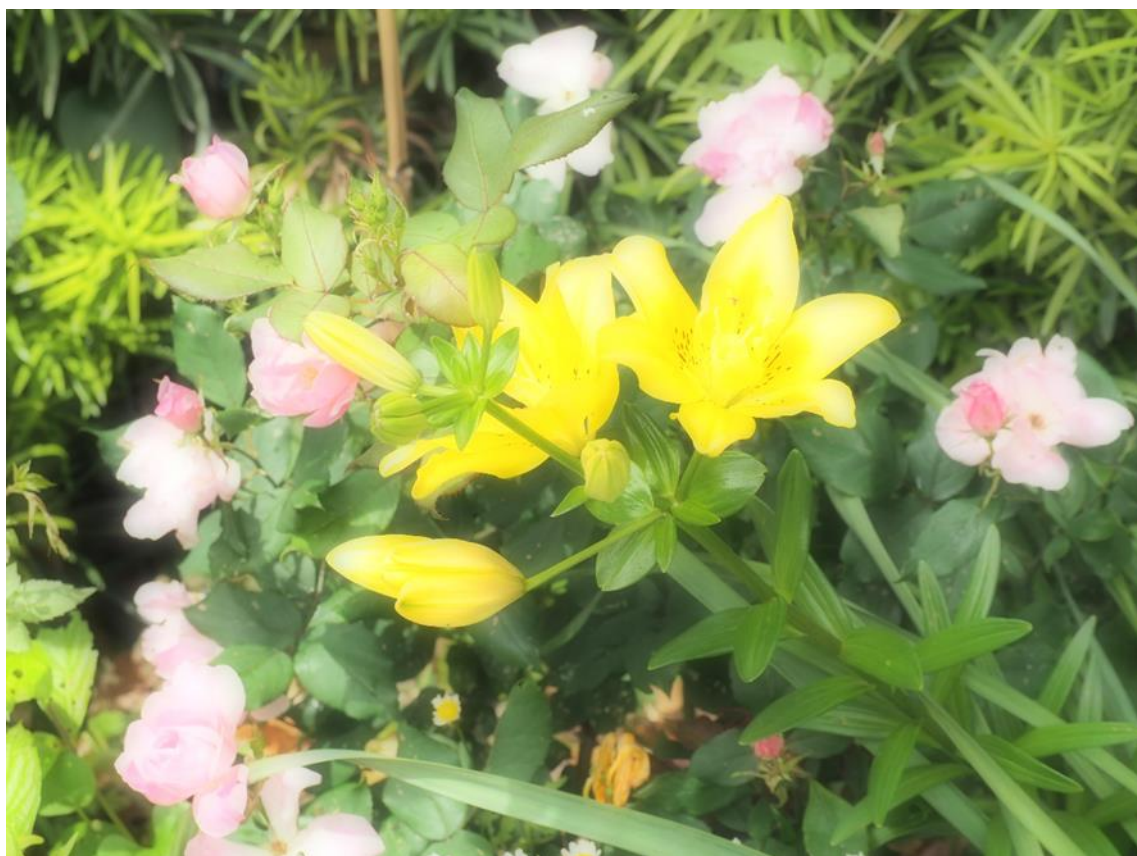
えるような態度でイエスが生きておられることを証言しています。イエスとともに殉教することを嫌がった彼は今度こそ主イエスのために殉教することになるのです。ここに記されたイエスに対する証言はイエスとともに生活したペトロだからこそできた言葉です。他の人の言葉を借りての証言ではなく彼自身が体験した力強い言葉なのです。私たちもペトロに倣って主イエスを自分の言葉で伝えることが大事です。もちろんそこには聖霊の力を仰ぐことも忘れてはなりません。イエスを伝えたいという望みがあれば、聖霊は必要な言葉を私たちに授けてくださいます。

### 第二朗読（コロサイの信徒への手紙 3章1～4節）

キリストの復活は私たちと切り離されたものではなく、私たちの身に起こったことなのですとパウロは述べています。主の復活は私の復活のためなのです。イエスの復活がなければ私たちの復活もあり得ないからです。「あなたがたもキリスト共に栄光に包まれて現れるでしょう」とパウロは言っています。だから上にあるものに心を留めましょうと述べて、私たちが地上の悩みや苦しみに心を乱されることなく、復活された主イエスを眺めて生活なさいと励ましているのです。弟子たちはまさにそうしたのです。

### 福音朗読（ヨハネによる福音書 20章1～9節）

ヨハネによる福音では週の初めの日の出来事の記録ではイエスの墓が空になっていたことだけが記されています。復活徹夜祭に読まれるマタイ、マルコ、ルカによる福音ではイエスの体を包んでいた亜麻布のことと、天使が現れたことが記録されています。主の天使が現れたことで主イエスの復活を信じた弟子たちですが、ヨハネはそのような出来事がなくても「見て、信じた」のです。この違いは何でしょう。そこにはヨハネの主に対する絶対の信頼があったと思います。ヨハネについては「主が愛された弟子」と記されることが多いですが、そこには主イエスが「自分に対する理解、信頼がある」と認めていたことがあるのでしょうか。だからこそ、イエスの言葉を信じて、主イエスは復活なされたんだと空の墓を見て悟ったのだと思います。



自然も宇宙も主の復活を喜び讃えている！（2022年 園庭にて）

**P.S.**

**コロナ感染症が少なくなってきた、復活祭のパーティーができるまでになりました。うれしいことです。でも世界には復活祭の喜びを十分にできない方々がたくさんおられます。その方々のためにも祈りましょう。主の復活の喜びがすべての人々に与えられますように。**

**カトリック足立教会  
主任司祭 野口重光**